

【質問内容】

1. 今後の財政改善策について
2. シティプロモーションについて
3. スマホを使った市民参加型のまちづくりシステムについて

6番作野幸憲議員、質問席へ移動願います。

〔6番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員の質問時間は50分、午後4時6分までです。

なお、作野議員につきましては、事前にパネル使用の申し出がありましたので、これを許可いたします。

作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 議席番号6番作野幸憲でございます。

それでは、早速一般質問をさせていただきます。

さて、今回私が質問させていただくのは、「今後の財政改善策について」と「シティプロモーションについて」、そして「スマホを使った市民参加型のまちづくりシステムについて」の3つでございます。よろしくお願いいたします。

昨日の代表質問と重複する部分もあるかと思いますが、答弁のほうをよろしくお願いいたします。

それでは最初に、「今後の財政改善策について」質問いたします。

ことし10月に市長選挙が行われ、近藤市長さんが3選を果たされました。まことにおめでとうございます。

今回の選挙戦では、私は市の財政が一つの争点になったと思っております。近藤市長さんは、「財政は安心、大丈夫」ということを繰り返し街頭などで述べられ、市の借金である公債費を、平成18年度の680億円から平成27年度には595億円に減らした。また、基金は平成18年度の31億円から平成27年度には96億円にふやしたなど8年間の実績も述べられました。これは間違いない事実でございます。しかしながら、以前から議会での議論では、多くの議員の皆さん方から「このままで本当に大丈夫か」という質問が多くあり、その都度執行部は「大丈夫だ」という答弁をしてこられました。

そこで、まず質問をいたします。

安来市の現在の財政状況をどのように考えておられるかお答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田総務部次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 財政状況につきましては、平成27年度決算数値におきまして、前年度と比較して経常収支比率、地方債現在高比率は上昇しましたが、実質公債費比率、将来負担比率は改善され、また積立金、現在高比率につきましては大幅にアップをいたしました。この中で、特に実質公債費比率につきましては、平成18年度と比較いたしますと10.1ポイ

ント改善され、15.0%となっております。大型事業を進めていくこともありまして、現在の状況は決して楽観視はしておりませんが、単年度の数値だけではなく、中長期的な視点から財政状況を把握するよう努めてまいりたいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 今回の選挙で開票結果が出た後、近藤市長さんはメディアとのインタビューでも、「財政は大丈夫、失政はなかった」と繰り返して言うておられました。しかし、次の日の会見で、「市民に対し財政の実情を常にしっかりと説明しておくべきだったと反省している。将来ビジョンをもっと語るべきだった」というコメントが新聞紙上に載っておりました。私は選挙が終わってすごく謙虚になられたように感じました。

そこで、市長さんにお尋ねいたします。

財政の現状を市民はどの程度理解していると考えておられますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ そのもっと説明しておくべきだったというのは、私は議会の皆さんには、るる何度も何度も説明をしております。こういう機会を通じて市議会の公開等でご理解をいただいていたつもりだったのですが、いまさら選挙のことを言うといけません、その当時の言葉ですんで、相手候補がですねえ、身の丈に合った身の丈に合ったということはずっと言われてたんです。この庁舎規模、あるいは市民会館の規模、あるいは財政規模にまでそれを言われて、本当に市民の皆様がこんな大きいもん建てていいのだろうか、あるいは市民会館もあんな大きいものを建てていいのだろうかと言われたときに、本当にもうちょっと説明しておかんと、あそこの市民会館も市の中で一番小さい1,008ということです。ここもですねえ652、決して大きいものじゃない、前の切川の1万2,400から見れば半分ぐらいということで、きちんと言うておかんといかんかったなということの反省を踏まえて、相手候補が身の丈に合った、身の丈に合った、身の丈以下のことしてるんです。身の丈よりちょっと小さいことをしているわけですが、その辺を説明しておかなきゃいかんかったなということの反省を込めてそういう言動になったところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 市長さんは過去の議会でも、安来市財政は「県内の他市がうらやましがるほどの状況だ」というような答弁もしておられます。真の意味で財政は健全と言えると思っていらっしゃるでしょうか、市長さん、お尋ねします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 近藤市長。

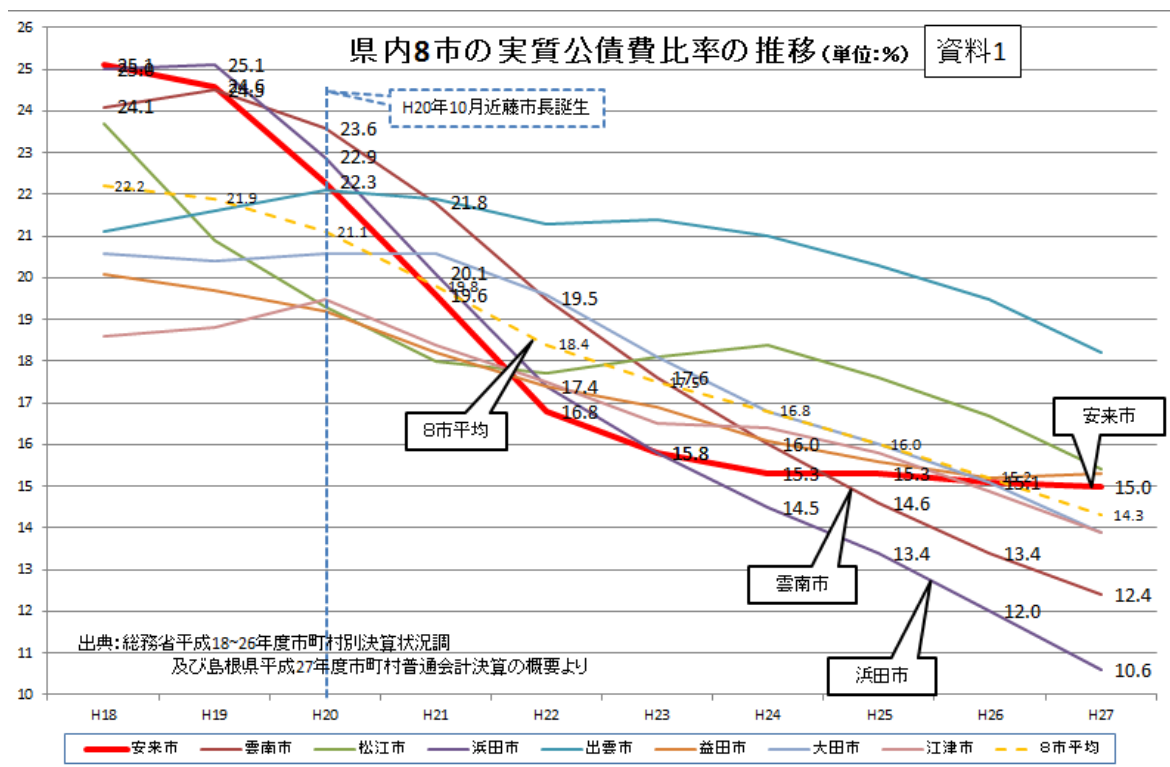
▼○市長（近藤宏樹君）▽ これだけ健全で、積み立ても多くして借金もすごく少な目で、ですから私は本当に健全であるからこそこういう大型事業が着工できたと思っておりますので、当然健全財政であるというふうに思っております。決して楽ではありませんが、県内では健全なほうである、こういうふうに思っているところでございます。積立金にしても、安来市の4倍の人口の松江市が一千数万円しか積立金がない、出雲市は我々の3倍、4倍の程度でありな

がら、積み立てをして同じぐらいである、そういう相対的に見ても、決して私は安来の財政は楽ではありません、健全だと、こういうふうに思っておるところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 今回私はこの質問をするに当たり、過去10年間の国や県が公表しているオープンデータを活用して独自に分析し、検証をいたしました。検証しておりますので。当然国が定めた財政の健全化判断比率などは、イエローカードと言われる早期健全化基準を全て下回っております。しかしながら、この基準は、ご存じのとおり平成19年に北海道夕張市が財政破綻をしたことをきっかけにできた法律で、現在では地方財政のさまざまな指数も大きく変化し、状況も変わってきていると私は思っております。現在総務省が使っている財政構造の弾力性を示す指数として、実質公債費比率と経常収支比率があります。平成26年3月定例会でも、私の会派代表質問で、市長さんの答弁でも健全化を示す最もよく使われる指数として借金の割合を示す実質公債費比率を引き合いに出されました。そのときの市長さんの答弁は、「山陰の市の中でトップクラスの数字でございます」と言われました。

資料1をご覧ください。

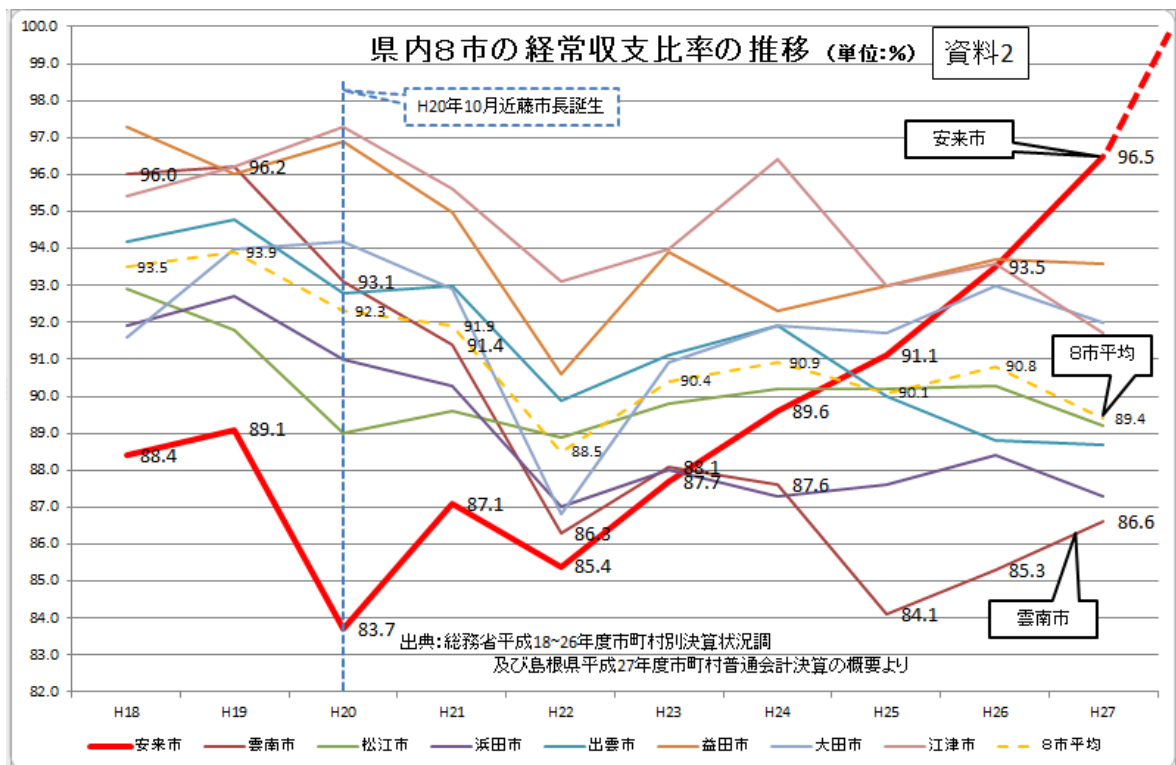


そのときは県内2番目で、山陰両県の12市で3番目でしたから、確かにそうでありました。安来市の実質公債費比率の推移は、先ほどもあったように、平成18年度には25.1%で全国市区ワースト11位、県内8市の平均がそのときは22.2、全国の市区の平均が15.5%でした。それが平成27年度では、安来市は15.0%で県内8市の平均が14.3、全国の市区の平均は、平成27年度はわかりませんが、その1年前の平成26年度では8.6%まで改善されました。今までの基準に今の数字をそのまま当てはめて判断してよいのかどうか、私はそうは思いません。県内8市がいずれも実質公債費比率を大きく改善しています。特に浜田市は、平成18年度には安来市に次

ぐ全国市区ワースト12位でしたが、平成27年度は10.6%まで改善をしております。また、県内の市で人口や産業構造が一定で比較するのに妥当な類似団体の雲南市でも24.1から12.4まで改善しています。

そして、最近安来市議会でも議論になっているのが経常収支比率です。地方税、普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される財源のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充当されるものが占める割合をあらわします。要するに、自由に使えるお金が多ければ柔軟な政策、事業ができますが、使えるお金が少なれば柔軟な政策、事業ができないということです。一般的に言われているのが、この経常収支比率が100%を超えると新規の事業が難しい状態ということです。安来市は、平成27年度が96.5%、29年度から今のところ10年近くは100%前後を推移する状況になるという見通しが示されています。つまり、今より硬直化が進む状態になるということです。

資料2をご覧ください。



このグラフを見ていただくと、県内8市の過去10年間の経常収支比率の動きがよくわかります。安来市は、近藤市長さんが誕生した平成20年度には県内断トツトップの83.7%で、80%の健全化ラインに近い数字でした。その後、一時数値は改善しましたが、平成23年度からは安来市のみが顕著な右肩上がりになり、平成27年度には96.5%となっております。ほかの7市は、1市がほぼ横ばい、そのほかの市は全て数値を改善しています。これが過去10年間の県内8市の経常収支比率の現実です。そして、平成26年度では、全国市区819で100%を超えているのは、わずか17ほどしかありませんでした。こういう状況ですので、質問をいたします。

近年の決算審査の折、指摘事項で事務事業の見直しをしっかりとしてほしいという指摘をしておりますが、実績がなかなか報告されておられません。近藤市政になってから事務事業の見直し

はどの程度やっておられるのか、そして実施しておられるのであれば、その成果はどれぐらいありましたでしょうか。特にやめた事業は幾つありましたでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ それでは、近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 実質公債費比率は、25.1からずっと10%ぐらい良くなっています。今いろいろな大型事業をやっておりますので、経常収支比率、そしてまた実質公債費比率が一時的に上がっているのは、るるこの中期財政計画でも説明しているところでございます。余り他市のことを言いたくないですが、浜田市、特にこれだけ実質公債費比率が低いということは、恐らく600億円か700億円の下水道を整備してないんです。これらを全然、きちっとこれらを調べていただければいい。雲南市も、ことしは安来市より地方交付税が48億円ほど多いですから、ですからそういうことも総合的に考えて、数字のみを上げて指摘するのではなくていろんなこと総合的に勘案していただきたい、こういうふうに思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 答弁。

池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 事務事業見直しについてのご質問ですが、近藤市政になってからですが、し尿処理施設の包括的民間委託や車両業務の一部委託、上の台緑の村や学習訓練センターの指定管理委託への移行など、民間活力の活用を図ってまいっております。また、ふるさと公社への運営補助事業や住宅用火災報知機設置補助事業、青少年センター管理業務や庁内環境推進業務など、所期の目的を一定程度達成したものについては廃止をしてきております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 市長さんから答弁がありました。今まで議会では、我々が質問をするといつも数字を出して、県内の、我々はそれを聞いて一応納得しておったところですので、一方的にとというか、これは事実でございますので、事実を述べさせていただいてるので、そのことについては市長さんも理解をしていただいて私の質問を受けていただきたいと思っております。

それで、平成27年度決算ベースで、細かいものまで入れると640を超える事業が安来市で実施されておりますが、そのうち約40%を占める250以上の事業が一般財源のみの事業でございます。安来市の将来を考えたとき、福祉や地方創生に関するものなど大事な事業がとても多いのですが、私は自由になるお金がなくなっている状態では、一般財源のみの事業もメスを入れなければならない状況を迎えていると思っておりますが、見直しのお考えはありませんでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 27年度の決算ベースで、一般財源のみで行っている事業は全部で253事業あります。それぞれがさまざまな行政需要により実施されてきておりますし、

政策的な部分もありますので、簡単に廃止とか縮小などはできないと考えておりますが、その中でも将来的に事業の見直しが必要であると判断をされるものが約40余りありますので、今後予算編成作業等を通して見直しを図ってまいりたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ また、冒頭に市長さんの8年の実績の一つとして基金の話をしていただきましたが、ためておられる基金の中で自由に使える財政調整基金と減債基金を合わせても、平成27年度末で26億6,000万円余りの見通しであります。このままの見通しでは、平成30年代半ばぐらいにはこの両基金はなくなると思いますが、現在の基金で本当に大丈夫でしょうか、お答えをお願いいたします。

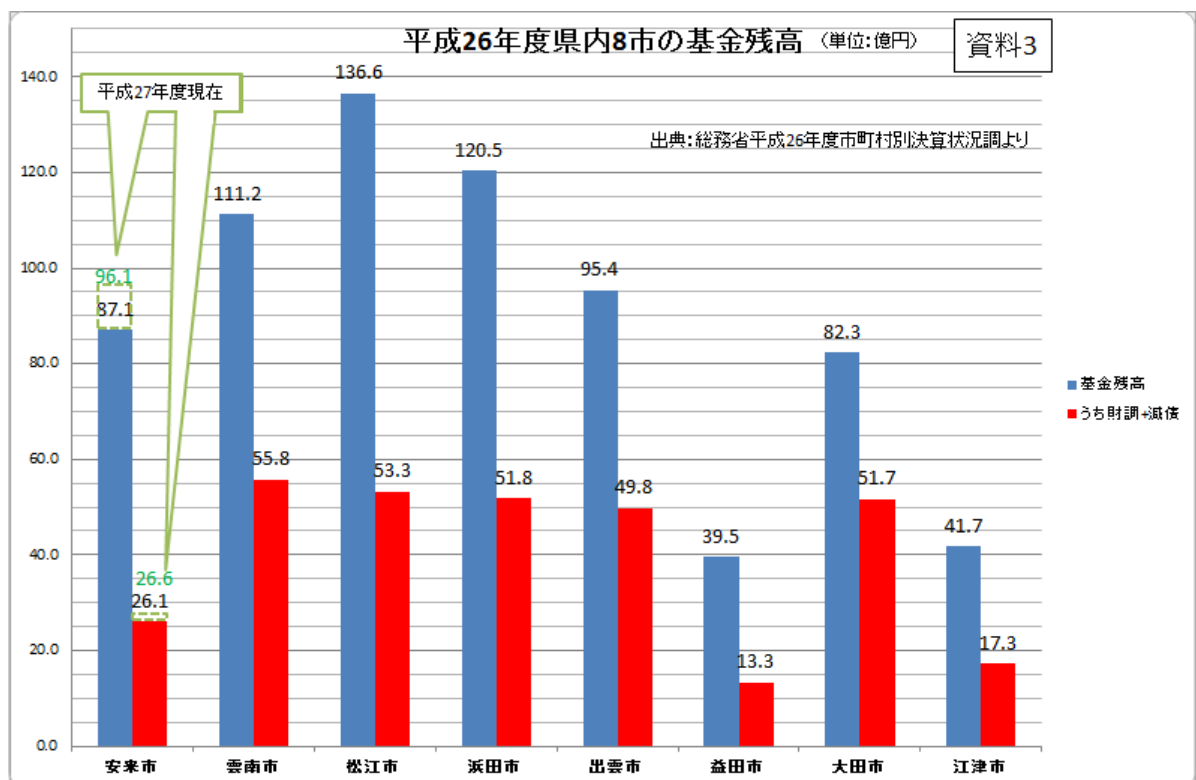
▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 財政調整基金につきましては、中期財政計画の推計に基づき、所要額の取り崩しを見込んでいます。減債基金につきましては、現時点で繰上償還を予定しておりませんので、取り崩しを見込んでおりません。基金全体では、単純に基金総額ではなく、標準財政規模に占める基金の割合、積立金、現在高比率では県内でもトップクラスであります。また、特定目的基金につきましては、その基金目的を達成した場合には、基金の廃止を含め、必要に応じた対応を検討してまいります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 今の答弁にあったような特目基金についての考え方であれば、これは議会の了承が必要になりますので、議員並びに市民に丁寧に説明をしていただき、理解が得られるような努力をすぐにでもしていただくようなことを考えていただきたいと思います。

それでは、資料3をご覧ください。



ただ、このグラフを見ていただくと県内8市の平成27年度の基金状況がわかります。特に類似団体の雲南市を安来市の隣に表示し、わかりやすくしておりますが、雲南市の平成26年度現在での基金総額は111億2,000万円余り、そのうち財政調整基金と減債基金は55億8,000万円という金額になっております。

資料4をご覧ください。

県内8市 地方債残高の増減 (単位: 億円)			
自治体名	H18	H27	増減(H27-H18)
安来市	368.8	333.3	▲ 35.5
雲南市	541.8	347.7	▲ 194.1
松江市	1443.2	1247.6	▲ 195.6
浜田市	513.9	560.0	46.1
出雲市	1299.5	1126.4	▲ 173.1
益田市	384.0	396.8	12.8
大田市	375.2	336.6	▲ 38.6
江津市	192.4	224.4	32.0

▲は減額

出典:総務省平成18年度市町村別決算状況調
及び鳥根県平成27年度市町村普通会計決算の概要より

まだ市長さんは地方債残高を、平成18年から平成27年にかけて35億円余りを減らしたとおっしゃっておりますが、県内8市もこのような結果でございます。特に、これも雲南市ですが、いろいろな事情があるとはいえ194億円余りも減らしておられますので、安来市が特に自慢できるということには私はならないと思います。

そこで、今議会の施政方針で、人件費の削減や補助金の見直し、物件費の圧縮など上げておられますが、具体的な財政改善策はどのようなものでしょうか。そして、それぞれ目標値を設定して取り組まれると思いますが、いかがでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 人件費、特に職員につきましては、今後新たに策定いたします定員適正化計画の中で、適切な人員配置を検討してまいります。補助金につきましては、毎年度3カ年を経過するものにつきましては審査を行っており、その有効性や公平性等を評価しながら見直しを行ってまいります。

物件費につきましては、中期財政計画や予算要求時の各課ヒアリングを通して優先順位を検証し、類似事業の統合、必要性や効果の低い事業の廃止など見直しを図り、査定を行ってまいります。それぞれに具体的な数値目標は設定はしていませんが、中期財政計画に盛り込んだ

各項目と総額を上限として、緊急性も考慮しつつ全体的な圧縮に努めてまいります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ また、施政方針では、介護予防など医療費や介護費用を減らす取り組みについては触れておられませんが、私は財政改善には今まで以上に予防ということに力を入れていかないといけないと思っております。同様の質問を6月議会でさせていただいたときも、市長さんはそういうことも考えていかなければならないとおっしゃっております。何か新しい施策は考えておられますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 内田部長。

▼○健康福祉部長（内田修次君）▽ 昨日の代表質問の答弁と重複いたしますが、医療費などの削減に向けては、市では昨年より健康やすぎ21を策定しております。その中で、安来市健康推進会議が中心母体となり、健康寿命の延伸を目指してウォーキングやエアロビクス、セラバンドなどの運動教室や調理実習などの栄養教室、健康相談などの健康づくり活動を推進しております。

糖尿病対策では、安来能義地域糖尿病管理協議会を軸に、発症予防から適正な管理、合併症予防まで取り組んでおります。また、特定健診やがん検診等の受診率の向上のため、がん検診等特定健診のセット健診や休日の健診、女性のがん検診の日を設けるなどの工夫をしております。

国民健康保険では、レセプト点検によります内容の審査、点検を実施し、また●第三者給与事務●を適切に実施することにより、医療費の適正化に努めております。

また、後発医薬品を使用するまでの具体的な自己負担の差額に関しまして通知を行い、後発医薬品の使用を促進する取り組みを行っております。

また、介護費の削減につきましては、要介護状態等になることを予防し、さらに悪化しないように維持、改善を図るため、市では通所型の介護予防事業やミニデイサービスなどの地域介護予防活動支援事業、また介護予防普及啓発事業など、介護予防事業を積極的に実施しております。今後もこうした取り組みを継続して、医療費や介護費の削減に取り組んでまいります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 今の答弁ですと、継続していくということですが、新しい施策はないのでしょうか、お答えをもう一度お願いいたします。

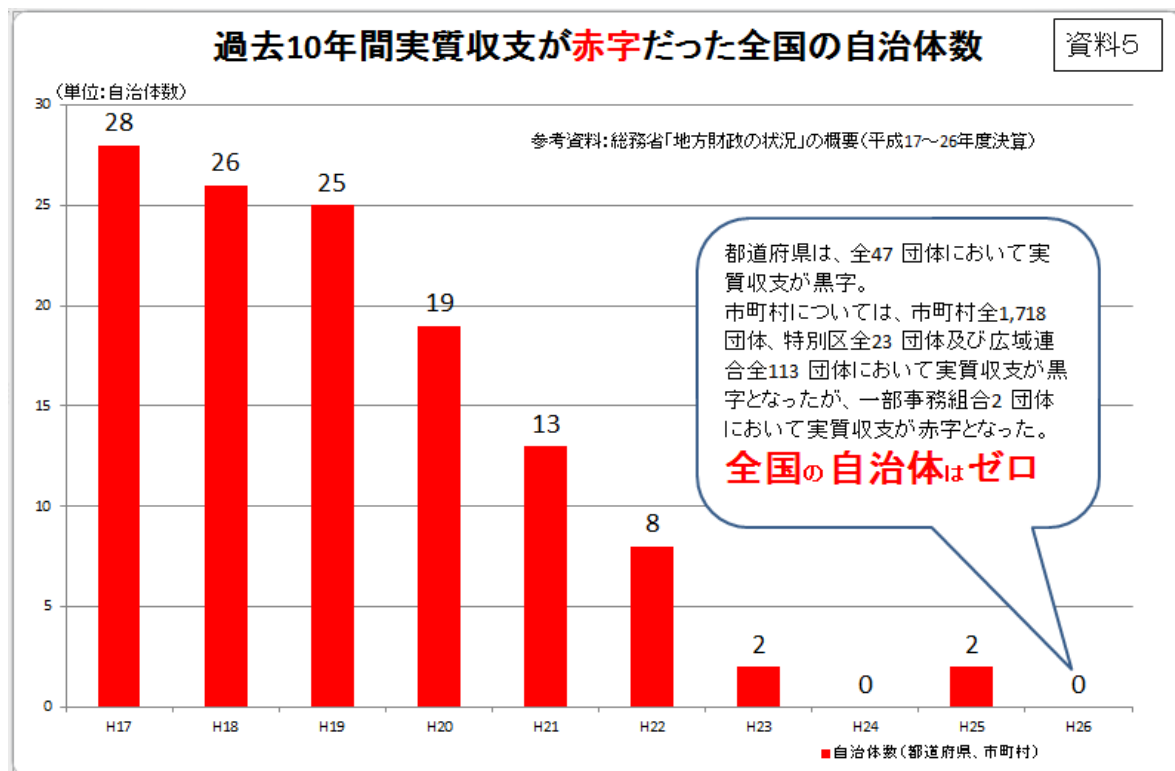
▼○議長（田中武夫君）▽ 内田部長。

▼○健康福祉部長（内田修次君）▽ 新しい施策というものはございませんけども、現在取り組んでおりますいろんな事業を、引き続き積極的に取り組んでいきたいというふうに思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ そして、この質問の最後になりますが、今回の質問に当たり、先ほど申し上げたようにさまざまな全国の財政データを私は調べました。その中で、私自身、夢なら夢でほしかったほど衝撃と焦燥感にさいなまれた数字があります。

それが、資料5です。



この資料は、総務省が毎年発表している地方財政状況の概要に、全国の実質収支が赤字の団体、つまり都道府県や市町村、特別区や広域連合などの数が載っております。ご覧のとおり、平成17年度には赤字団体が全国でも28団体ありましたが、ことし3月発表された最新のデータの平成26年度では2団体、それも一部事務組合のみで、平成26年度は全国の自治体1,800弱で赤字団体はゼロです、ないんです。安来市の見通しでは、平成29年度から実質収支が赤字になり、当分の間赤字状態が続く見通しです。そして、この事実は近い将来、安来市がこのままの財政政策を続ければ、全国の自治体で赤字団体でワーストワンのエリアに足を踏み入れ、当分抜け出せない状態になる可能性が高いこととなります。この状況を見れば、実質収支が赤字になること自体、とても不名誉なことで、またこの状態が数年間続くことは、私は非常事態ですし、とても深刻だと思います。私自身、実質収支が赤字ということの重み、また基金を安易に使うことに対して認識が非常に甘かったこともものすごく反省しております。当然市長さんや執行部はこのことをご存じだったと私は思います。それでも市長さんは、財政は大丈夫という判断をしておられるのかもしれませんが。私自身も予算には賛成しております。私はこの現実を見て、市長さんと議会とが危機感を共有できないということであれば、安来市の将来にとってとても悲しく、そして恐ろしい結果を招くことになると考えます。グラフなどを見ていただいても、全国、県内の財政はより健全化に向かって進んでいます。その中で、安来は逆方向です。市長さん、このことが数字が表す現実なんです。率直に受け入れていただき、今後の4年間で市民のためにトップリーダーとして責任を果たし、安来市財政を何とか改善していただきたいと思います。そのためには、まず来年度予算でしっかりとした改善予算を示していただきたいと思います。とにかく、それが今からスタートすべき財政改善策だと考えます。このこと

がわかったのは、一般質問の通告後に調べついた数字でございますので、特に答弁は求めませんが、何かあればお願いをしたいと思います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 答弁がありますか。

池田次長。

▼○総務部次長（池田周一君）▽ 中期財政計画で収支不足が平成29年度から発生するという事は説明をさせていただいております。この収支不足につきましては、財政調整基金で対応いたしますので、いわゆる実質収支が赤になるということはありません。したがって、そのグラフの赤い数字の中に仲間入りをするという事は考えておりません。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ そういう考えもありますが、現在全国ではゼロなんです、ゼロ。その事実というのはあるわけですから、執行部の皆さんもそのところはしっかりと、数字が表しているわけですから認識していただいて考えていただきたいと思います。

それでは、とても重い質問になりましたが、気分を入れかえまして、これから2つの大項目について質問をしたいと思います。ですが、これから2つの質問も、将来どうしてさまざまな政策を効率的にかつ経費を最小限にして行っていくか、行財政改革の一環という観点での質問でございますので、よろしく願いいたします。

それでは、2番目の大項目、「シティプロモーションについて」質問をいたします。

今回シティプロモーションについては、いろいろな議員の皆さんから質問もあったように思いますが、私はそれとは違う質問をさせていただきたいと思います。

そこで、まずシティプロモーションとはどんな意味なのか、簡単に説明をさせていただきます。それは、地域の魅力を創造し、それを広めることで地域イメージをブランド化することです。そこで、まず大事なのが安来市が全国からどのように思われているかということですね。

そこで、質問をいたします。

安来市は、全国からどのように見られているのか、そしてどの程度知られていると思われまするか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 平成25年度に市の観光協会のほうで観光動態調査、GAP調査を実施しております。その中で、観光資源の認知度について調査をしております。

まず、安来節どじょうすくいについてでございますが、よく知ってるという方が14.7%、知っているが25.1%、聞いたことがある、26.9%、知らないが33.2%になっております。また、足立美術館につきましては、よく知っているが20.4%、知っているが14.1%、聞いたことがあるが19.0%、知らないが46.3%となっており、それ以外の観光資源は知らないが60%以上となっております。また、安来市の認知度そのものについて調査の実績はなく、資料はございませ

んが、観光動態調査の結果からも認知度の向上はまだまだ余地があるというふうに思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ また一方、安来市民はどのように感じておられると思われませんか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 直接の資料はございませんが、平成26年度に第2次安来市総合計画策定に関して実施したアンケート調査を見ますと、自慢したい地域の風景や名所があるという問いに20.5%、まあまああるが23.2%、余りないが14.6%、ないが18.6%、地域に観光などの訪問客がふえているかという問いには、あるが1.2%、まあまああるが8.6%、余り思わないが24.5%、そう思わないが44.5%となっています。回答した人のうち、43.7%が自慢したい地域の風景や名所があると答えた一方、69%の人が観光などの訪問客がふえていないと回答をいただいております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ そういう中で、現在安来市をPRする方法はどんな形で進めておられますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 観光の面では、観光協会を通じて新聞、雑誌、テレビ、ラジオなど活用しております。このほか、中海・宍道湖・大山圏域市長会と共同して、関西、中京圏に対し、JRの車体、車内公告、駅構内での公告、新聞、雑誌での広告、山陰いいものマルシェなどへ、イベントを開催して行っております。

また、定住促進の面では、定住相談会、住宅フェアにおいてブース参加を行うほか、現在定住に特化したサイトを制作しており、これらを活用した情報の発信、拡散を予定しております。これらの機会を逃さず、PRに努めてまいりたいと思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 今回の質問をするきっかけになったのが、先般会派で視察した愛知県豊橋市のシティプロモーションの取り組みであります。手筒花火や路面電車を前面に、食文化なども取り入れ、特に多くの若者とさまざまな団体と連携し、すばらしいシティプロモーションを展開しておられ、私はこの手法をすぐに安来市でも取り入れなくてはならないと思いました。

そこで、質問いたします。

安来市は、他市に比べ自慢するものがたくさんあると思います。安来節や足立美術館、清水寺、月山富田城、日本遺産になったたら、そして最近世界に向けて発信していただきたいのが加納莞薔さんです。しかしながら、自慢できるものはたくさんあると思いますが、これがうまく交流人口の拡大や定住人口の増加につながっていないと思います。これらの魅力を複合させて、若い世代と連携し、取り組んでいくことがすごく大事になると思いますし、効率的なP

Rになり地域イメージを上げることになります。来年度に向けてホームページも再構築される予定でございますので、それを含め、今こそシティプロモーションに本格的に取り組んでみてはと思いますが、いかがお考えでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 交流人口、定住人口のところについては、月山富田城跡の整備事業、新工業団地造成、住宅取得の増改築、家賃助成などの支援などを行うほか、中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携した観光振興などにより対応してまいります。成果といたしましては、定住人口について、平成27年度の30代の社会増減でプラスに転じてた点や、本年9月に開催されたハーモニータウン住宅祭においては、来場時に行ったアンケートの集計では市外からの来場者が半数を占めるなど、一定の成果があらわれているものと考えております。しかしながら、今後より大きな効果を上げていくためには、まず安来市の知名度を上げて、行ってみたい、触れてみたい、体験してみたいと思っただけが重要であると考えております。そのためにシティプロモーションやマスメディアを活用、イベント開催、SNSを活用した情報拡散など、多くの手法を考えます。さまざまな機会を捉えて、安来市のPRに努めてまいりたいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ それでは、最後の重大项目、「スマホを使った市民参加型のまちづくりシステムについて」質問をいたします。

先般の会派行政視察で、豊橋市の後、同県の半田市に伺いました。私は同市のスマホの無料アプリを使った地域のさまざまな問題を解決するシステムを以前から知っておりましたので、とても興味がありました。視察をしてみて、これもとてもすばらしい取り組みだったので、今回質問することにいたしました。

この仕組みは、マイレポはんだといい、個人である市民一人一人が通常の生活の中で発見した道路の陥没や水路の修理、ごみ、道路端の草の繁茂等、自然に気づく市政上の課題に対してスマホで気楽に写真を撮り、投稿するだけで課題の解決につながっていく市民参加型のまちづくりシステムでございます。

そこで、まず質問をいたします。

安来市にも、毎年自治会や市民から道路や水路、ごみや交通安全などさまざまな要望が市に対してあると思いますが、その件数はどれくらいありますでしょうか。できれば分野別に分けてお願いをいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 平成27年度は、66の自治会やら各種団体から172項目の要望が提出されております。その内容は、道路、河川の維持修繕等などに関するものが100件、農道、林道の維持修繕に関するものが23件、教育に関するものが5件などでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ この際、時間延長をします。

作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ そして、その対処はどのようにしておられますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策推進部長（横田一道君）▽ 要望される自治会等の代表者は、秘書課、また広瀬、伯太地区については、それぞれの地域センターへ要望書を提出いたします。その後、該当課と日程の調整を行い、面談を実施しておりますのでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 先ほど答弁をいただいた中で、要望の中で特に多いのが道路関係になると思いますが、道路パトロールや点検はどのくらいの頻度で行っていただけますでしょうか。そして回り切れていますでしょうか、お尋ねをいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 小林部長。

▼○建設部長（小林勝則君）▽ 安来市の道路パトロール要綱に基づきまして、基幹市道につきまちは2週間に1回、その他市道につきまちは4週間に1回を目安に行っております。また、道路パトロールは非常勤職員2名によって常時行っており、パトロール要領に近い頻度で実施できております。また、パトロールの際には軽微な補修も行っており、細かな対応を心がけているところであります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 大規模なものやまとめてやったほうがいいものなどを除き、対応にはどれぐらいの日数がかかっておりますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 小林部長。

▼○建設部長（小林勝則君）▽ 緊急を要する箇所は直ちに行きます。おおむね二、三日で対応しております。もちろん当日対応しているものもあります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ この半田市のマイレポはんだ、運営するのにかかる費用が月額3万円ということで費用対効果も高く、私としては行財政改革の一環として、ぜひともすぐにも導入していただきたいと考えますが、いかがでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 小林部長。

▼○建設部長（小林勝則君）▽ この趣旨は、先ほどご説明ありましたけど、単に個人の生活環境の苦情を投稿し、行政がそれを解消するというのではなく、そのアプリというツールをきっかけに、市民の皆さんが自分にとってだけでなく社会にとっても解決したほうがよいだろうということを自分なりの考えで取捨選択し、連絡する。行政はこれを受け、検討して優先度を受けた上で対応をしていく、この過程をウェブサイトで公明正大に行うことにより、行政側の立場の理解が得られやすくなる、最終的には市民は町の意味決定などにかかわるものになるということを目的としたシステムであると思われまます。実態は、個人の苦情のはけ口や他人の

個人情報などのプライバシーを侵すおそれもあるものと伺っております。

ご提案のシステムにつきましては、ソフトウェアの導入を伴います市政全般での仕組みづくりが必要なものであります。道路などの軽微なふぐあい、情報につきましては、気づかれた市民の皆様からの通報に対して極力迅速に対応しているところでありますし、緊急を要する案件につきましては、常時電話、メール等で受け付けております。これらのことを踏まえ、自治体が各種団体等の要望も含め、今後も現行の受付体制にてお応えしていく考えでありますので、本システムの導入につきましては、現時点で考えはございません。どうかご理解願います。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○6番（作野幸憲君）▽ 答弁があったように、誹謗中傷とかそういうことについて問題点はあるということでしたが、半田市では2年間実施してきて誹謗中傷のようなものは全くなかったということですので、私は、現時点ではそういう考えはないということではありますが、将来に向かっては費用対効果も高いわけですから、財政的なことも考えて、そして職員さんの負担も少なくするというのも、ぜひともまた考えていただきたいと思います。

以上で準備していた質問は全て終わりました。

時間になりましたので、私の一般質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

▼○議長（田中武夫君）▽ 以上で6番作野幸憲議員の質問を終わります。